特113
888

東北

寶生正流派校訂

元清作

8468
4-1

始

特113
888

山城
一月 四級

前仕手
後仕手
脇

女
和泉式部
僧

元清作

東

大正
5. 3. 28
内交

ゆく。冬にあつまりむすび野をも
分ぬきつゝ行たまふ。山まゆるの
こゝロ
雲をとゝく。於のこゝもちうぶくや
猪まのぐすけとゝきをのれらんくく
平句
梅をは梅い和水式部とゝいぢや
皆く詠めだやと思ひ「城ちうぶく」

あまを愛法僧。を梅を人よ法華
いとゝば。何ともう赤くまゝきていぢや
平句
ちんぢんよ寿ゝゆゝで。和ゝの式部
とゝう赤くひつまいや方ゝ
みは云つゝぢ。梅のゝゝ好ゝ求
ゝを賞宮梅ゝ社中ゝ

さぞぬ人乃中きばとてをもひ
ぶらへてをぶ。ぶ寺いるぶ乃ぶ
ぶ乃ぶ付。和泉武部ぶ梅を植
おぶ。新堀の梅ぶ乃ぶ。めぐれを
ぶ。ぶ乃ぶ。ぶ梅ぶ乃ぶ
ぶ乃ぶ。ぶ乃ぶ。ぶ乃ぶ
ぶ乃ぶ。ぶ乃ぶ。ぶ乃ぶ

ぶ乃ぶ。ぶ乃ぶ。ぶ乃ぶ

式部のふねどもに作りもうけて
ぞ侍りて今ふかき海ぞこ
に
ふねどもに侍りてあり
おくにて花もはなびらを出
ぬるに年ごろ香もいやましに
さまざまに乱れ
物も

むかしを思ふとて
年月を経る
き野辺の梅乃花
あるじを
忘れぬるかな
式部の君ごろ
やいかを
まくにつきても思ひ出の
まや昔

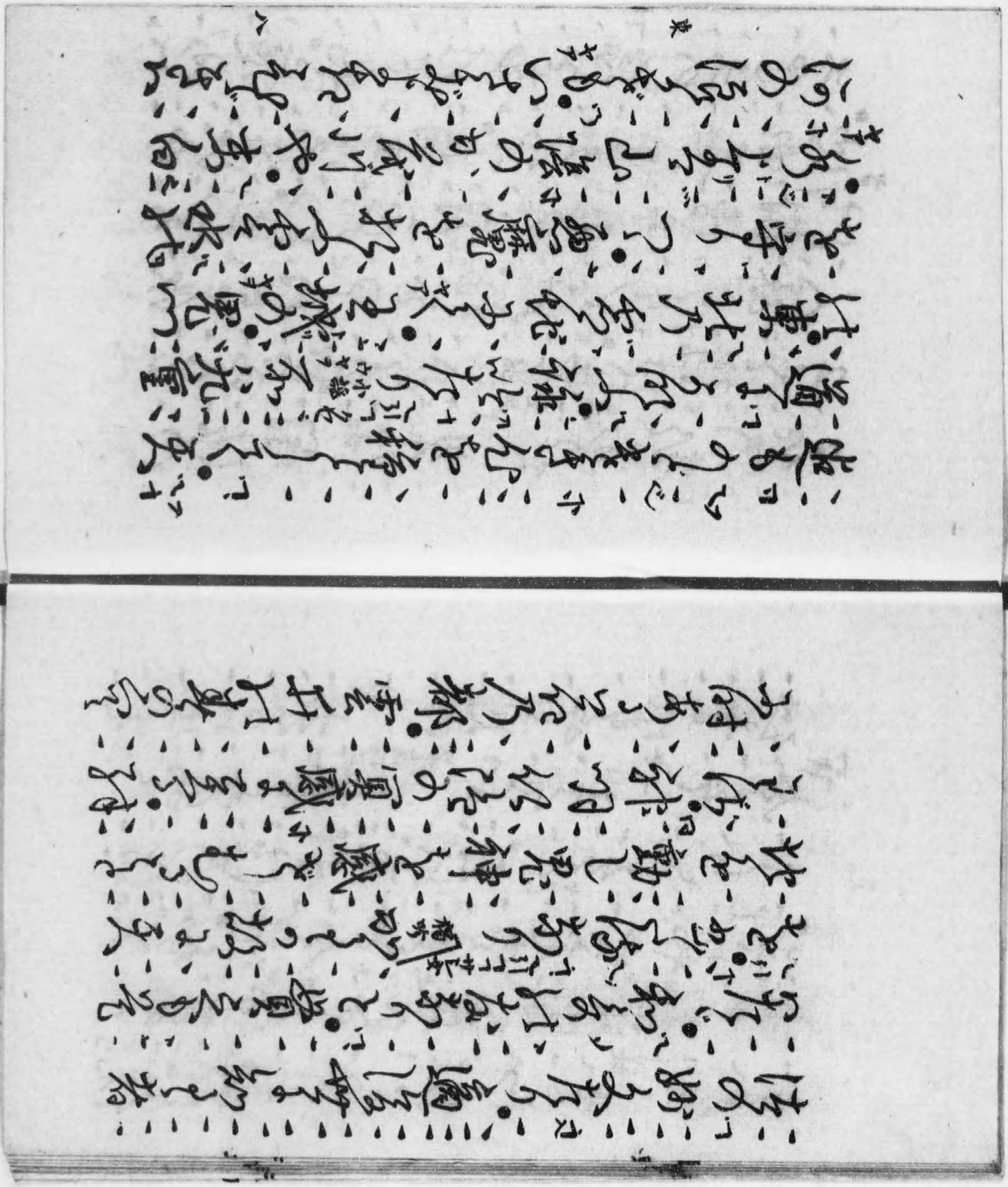
乃ち為あらめ我身ひとりぞ心なき
庭ニ
猶もいさ白雪の降れるを
ふるさとの露乃ち
ふるまいそとそこの露乃ち
ふるさとの梅を
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの

道まつのあ月の松を見よ経堂
を読誦まつるべく　ほしいまゝ
法経やあ弟あるうつの乃法師や
上
性を読誦志孫、ふい聖経不よ
男まつり。簡浮の力経経寺簡ど
上東門院乃出時法堂に経

つ弟を道を給ふ。法車に中
みくに法義師の、ひゆちんを
うふ、借給ふと式部紫門の内
まてきし、上門乃和法の車に乗と
きけば我も史もと。せよきる歌
加賀みよし事。今に乗ら昔

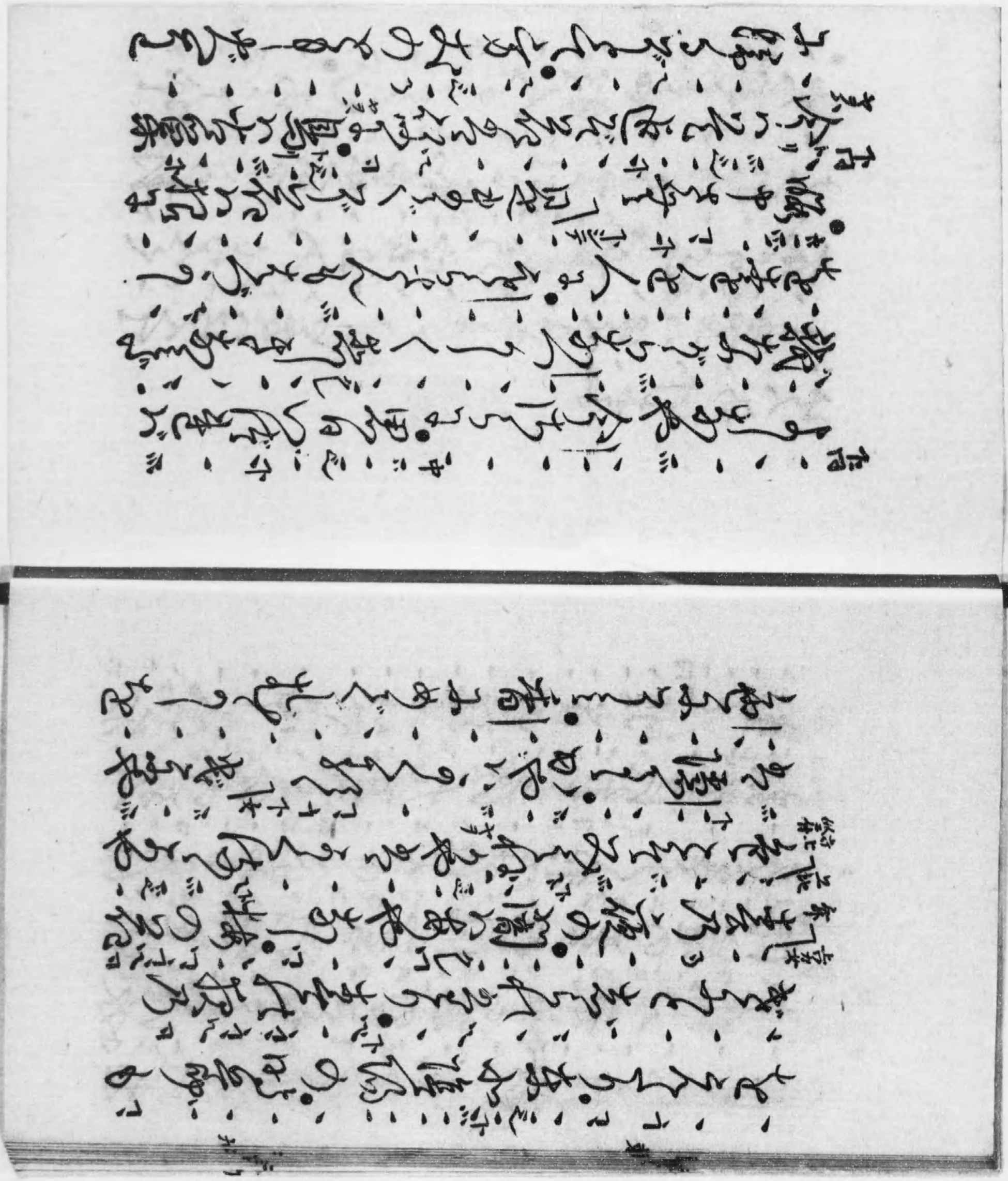
[illegible]れさむらふぞ[illegible]や　「[illegible]」　[illegible]
和泉武門の孫[illegible]すそと田舎[illegible]も
[illegible]一[illegible]り。扨[illegible]の[illegible]意のぬく
[illegible]宅[illegible]ばたやの[illegible]や　「[illegible]」中こ
[illegible]の大宅[illegible]いでぬ[illegible]れ[illegible]。後
直[illegible]華の[illegible]なりて　「[illegible]」

[illegible]寺[illegible]月の　[illegible]るい大宅
「[illegible]」今ぞ[illegible]
[illegible]と[illegible]。[illegible]男[illegible]安乃
[illegible]。車[illegible]乃道
[illegible]や大宅のぐ[illegible]と今ぞ。和泉
武門[illegible]成[illegible]そんを[illegible]ぞあり
[illegible]。[illegible]人和[illegible]すといつぐ。[illegible]伝



常安の孫をあはれとうや思ひ
池水をとゝのへつゝ鳥の宿まもる中
に樹傷をたゞく月にみがいづる
人跡うすくして軸をつねとする
そをぬくいと孫のゝこゝ
花乃都あり見侍関ばの

軒の順子の孫はいかゞ
朝ぎるに高く九夏三伏のあつ
さをもくゝ秋をたゞとゝ
清庭の書は風一声は蟬を催
し求る提のまゝ成ぬ水
ふゝる月影ゝ下に居ぬ



786
481

版權所有

大正三年十月三十一日印刷
同　年十一月二十日發行
大正五年三月十五日再版

校正者　實生正流派

正價壹册
金拾錢

著者兼發行者　長野市上西之門町十二番地　中澤眞治郎
發行所　長野市上西之門町十二番地　會眞堂
印刷所　長野市大門町九十五番地　塚田友次郎
賣捌所　全國各書林

終